

『敏感期』は自然がくれた成長のためのチャンス!!

…頑固なまでに何かにこだわったり、同じことを何度も繰り返す子どもを前に途方に暮れた経験はありませんか?

それこそが、一生に一度だけ訪れる「敏感期」のサイン。

この「敏感期」に入ると、子どもは環境から必要なものを吸収し、自分を削っていきます。

○ 敏感期は以下のように分けられます。

・言葉に対する敏感期・・・生後4ヵ月



赤ちゃんは驚くべき早さで普通の生活の中で言語の獲得を成し遂げてしまいます。

・感覚に対する敏感期・・・生後3歳～6歳



この時期の子どもは、あらゆる感覚的な印象(色、音、形、感触等)に特別の関心を示します。

・秩序に対する敏感期・・・生後2歳～4歳



この時期の子どもは、環境内の物全てや、一日のリズムなどの秩序に熱心な関心をよせます。  
 そのため、しばしば子どもは大人から頑固なわからず屋よばわりされます。

お子さんのこんな場面ありませんか?

- ☆ 乱れた靴を全部そろえる。
- ☆ 使ったものがきちんと元の場所に戻っていないと泣いたり、元の場所に戻そうとする。
- ☆ これという理由もなしに泣き出し、どうしても泣き止まないことがある。  
 その理由として、お散歩の道がいつもと違うから、抱き方がいつもと違うからなどいつもと違うことをしていることが考えられます。

子どもは自分を取り巻く環境の中で、人や物事に対して自分なりに秩序づけを試みていて、その途中で乱されるとパニックを起こしてしまうかもしれません。  
 したがって、物事の秩序や物の置き場がいつも決まっていることが大切です。

清心幼稚園でも、自分の下駄箱やロッカーなど、いつも同じ場所に自分の物を片付けたりしています。また、お部屋の中の教具、教材もいつも決まった場所に設置しています。

・運動に対する敏感期・・・生後2歳～7歳

この時期の子どもは、自分の体の動きにも大いに注意を向けます。



例) 砂場で子どもがバケツに砂を詰めている時、大人が早く切り上げたいからといって、子どもの側から砂を詰める手伝いをして早く目的を果たせようとする。  
ところが、子どもの目的は早くバケツをいっぱいにするのではなく、スコップに入れる砂の量の多少を体感する重さの違い、それに伴うスコップを持つ力のバランスなど楽しんでいるのかもしれない!



◎ こういったように、大人の都合でせうかく敏感期を無駄に過ごしてしまいます。  
子どもたちのこういった体験を大切にあげましょう!!

敏感期の秘密のパワー

子どもの敏感期は、ほぼ同じところに同じパターンでやってきます。もちろん多少の個人差はありますが、ある日突然始まり、ある日突然終わるということでもありません。

敏感期は、そのことに対する意識が高まってきた時に始まり、子どもがグッと入り込んで集中している様子が見られるうちは、その敏感期の真っ最中といえます。子どもの興味がだんだん薄れてきたら、次の段階に入った証拠です。そうやって子どもは、敏感期の課題をクリアし、自分を成長させていくのです。